

	学校教育目標	重点目標	目標達成のための手立て	評価項目	自己評価・保護者評価		学校関係者評価	改善計画
					数値	結果と課題の説明	意見等	改善案
保 健康・体力	「強く」 心身ともに健康で、北方に逞しく生き抜く子	望ましい生活習慣の確立	①検温表を活用しながら生活リズム、感染防止の意識の向上を図る ②手洗い、消毒、マスク着用、検温の意識の徹底 ③校内学習環境、施設設備の改善 ④授業時間以外の学習時間の確保(家庭学習) ⑤栄養教諭による食育の指導 ⑥がん教育、薬物乱用防止教室の開催	新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けた取組が徹底されているか(マスク着用、3密回避、消毒、健康観察シート等)	(学)94.7% (保)95.1% ○	新型コロナウイルス感染症対策には、全教職員が高い意識をもって取り組むことができた。 感染拡大防止のため、従来の授業参観は実施できなかったが、YouTube配信を活用したオンライン参観日を実施することができた。	・コロナにかかる取組については、必要に応じて対応できたと評価する。 ・休校中からゲームに時間を費やす子供が増え、生活リズムの乱れがみられる。 ・授業評価や自己評価は「なぜできなかったのか」を検証することが大切。	・感染防止対策を徹底し、「学校の新しい生活様式」を踏まえた教育活動に努める。 ・オンラインによる参観日や授業など、ICT機器を活用した教育活動を進めていく。
				新型コロナウイルス感染症の防止対応における学校の教育活動は適切だと感じられたか(行事の精選、日課表の変更、オンライン参観日等)	(保)92.8%			
知 確かな学力	「正しく」 ものの観方、考え方が正しく、創造性豊かな子	学力、体力の向上	①児童が落ち着いて学ぶ、学習環境づくりの徹底 ②正答率60%以下の児童をゼロを目指す授業づくり ③児童の思考力を養う授業づくり ④指導事項を確実に指導する授業づくり ⑤少人数授業の実施、TT、学習支援配置等による指導体制の強化 ⑥教育課程への位置づけを明確にした体力テストの取組 ⑦体力テストにおける全国平均を下回る種目数と、全国平均マイナス数値の半減	知識・技能の確実な定着を目指す授業づくりについて(正答率60%以下ゼロを目指す)	(学)97.0% ○	TTや少人数指導、学習支援配置、ICT機器の活用など、確かな学力を身に付けさせるための授業改善は、今後も課題としていく必要がある。 諸調査、テスト等の結果から～ 国語では「漢字を書くこと」「文章を書くこと」に大きな課題として見られる。算数では四則計算(特にひき算)に課題がある。 体力テストの結果から全国平均を下回る種目を次年度の活動に取り組む必要がある。	・宿題で保護者が今の学習内容を知ることができる。大事なポイントを宿題を通して保護者にも伝えるなどの工夫を。 ・教師が子供のやる気を引き出すための工夫・改善については今後も求める。 ・体力の低下については、検証と改善が必要。	・基本的な学習習慣の確立を図り、数値目標を明確にした実践の計画。 ・各調査・テスト等の分析にもとづく、課題に焦点を当てて授業改善を図る。(タブレット活用実践の積み重ねも重点とする) ・体力テストにおける数値目標達成に向け、重点を絞った実践。
				日常の授業は、学習内容の確実な定着に結びついているか。	(保)90.1%			
				子どもたちが健康や安全に対する習慣を身に付けたくましい体をつくる体制や指導がなされているか。	(保)92.5%			
徳 豊かな人間性	「朗らかに」 勤労を愛し誠意をもって仕事にあたる明るい子	豊かな心を推し進める	①道徳科の教科書、別葉の活用など、道徳科授業の一層の充実 ②授業以外の日常実践活動の充実 ③「積極的な生徒指導」の推進 ④不登校の解消と未然防止の取組 ⑤外部人材を活用した各種講座の実施 ⑥ボランティア活動への積極的な取組	道徳科の指導充実が図られているか。	(学)90.9% (保)92.5%	道徳科が教科となり、これまで以上に授業研究に努め、「考え、議論する道徳」の充実を図ることが必要である。 学級経営においては、「学校の新しい生活様式」に則り、活動を制限されるものもある中、教員同士で協力し合うことができた。 今年度はコロナの影響もあつてか、登校不安や情緒不安定など様々なケースがあり、今後も保護者や関係機関などと迅速・丁寧な対応と、連携が必要。	・休校明けで不登校が例年より増加している状況があることから、生活リズムを整えていくよう訴えていくことが大切。	・道徳科の授業改善、特別講話等の計画的な実施(状況に応じて) ・いじめの積極的な認知と、組織的な対応の強化。全職員による日常的な情報交流やアンケート調査の継続。
				子どもたちの意欲を引き出し、過ごしやすい学級の雰囲気をつくる工夫や指導がされているか。	(学)90.9% (保)97.1% ○			
				いじめや不登校等の情報収集に努め、適切な指導が図られる体制が機能していたか。	(学)87.9% (保)91.4%			
信 頼される学校	「学校経営方針」 ○新型コロナウイルス感染症に対する対応 ○学校力・組織力向上(焦点化・見える化・徹底・継続)	学地域づくりの推進	①感染防止に向けた、個人および集団・組織としての基本的な取組の徹底 ②習慣に捕らわれない感染防止を第一に考えた学校行事の見直し改変 ③「報告・連絡・相談・根回し」を確実に実行し、焦点化・見える化・徹底・継続を図った、質の高い教育活動の充実 ④危機管理・情報共有の徹底 ⑤伊達中校区による小中連携教育 ⑥可能な範囲でのコミュニティースクールの活動深化	危機管理(安全を守る指導や対策)がしっかりとできているか	(保)93.0%	避難訓練、メール配信、交通安全指導などで、児童の安全に対する意識の向上に務めた。 各分掌の部長、各学年の主任を中心とした組織により、情報を共有しながら教育活動の充実に努めた。 小中連携は、感染防止対策のため、一部凍結しているが、中学校による乗り入れ授業が実現でき、大きな成果である。	・スクールゾーンの安全確保は、子供たちのために自治会としても対応を続けていく必要がある。	・小中連携の取組の深化。伊達中学校校区4校の学習の約束との関連を図る。 ・学校からの情報発信を積極的に行い、コミュニティースクールの取組を充実させる。
				組織としての対応の徹底(分掌内、学年団内および管理職等との情報共有)	(学)91.2%			
				伊達中校区4校による連携(乗り入れ授業、学習規律、生徒指導交流等)※一部凍結	(学)87.9% (保)91.4%			
特別支援教育	障がいや発達障がい、学級の中で困り感をもっている子ども一人一人の教育的ニーズに寄り添った支援	支厚全員の指導と実践	①早期での児童の実態および状況把握や教育相談 ②中学校および高等学校卒業後を見据えた進路指導の充実 ③交流学級との連携や校区内4小学校との連携を図った特別支援教育	特別支援教育についての研究を深め、その実践に努められていたか。	(学)94.9% (保)95.7% ○	「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成・活用について、保護者と連携しながら、個に応じた教育の実現に努めることが今後も必要である。	・今後もこれまで通り推進。 ・特別支援教育に関する校内研修を充実させる。	